

2023

2
月号

県民の森 だより



発行 宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢41
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料 : 無料
利用時間 : 4月~10月 / 9時~16時30分
11月~3月 / 9時~16時

HPはこちら!

今冬の園内は、1月後半に低温がありましたが穏やかに「立春」を迎えています。

早くも陽気に誘われて黄色い「マンサク」の花が観られる所が出始めました。その他植物たちも陽気に誘われて蕾を膨らませはじめております。少しの防寒対策で、明るく静かな園内をゆっくり、お楽しみいただけます。

(所長:蜂谷仁)

『みやぎの森林・林業写真コンクール展』

公益財団法人みやぎ林業活性化基金

2月1日より3月21日まで、中央記念館1階展示ホールにて『第15回みやぎの森林・林業写真コンクール展』を開催いたします。

すてきな写真が盛りだくさんです。ぜひ、お立ち寄りください。

2月15日から5月

17日まで、警備会社の全日警と協同で園内

防火巡回を実施いたします。甚大な被害をもたらした1983年4月27日の県民の森の火災を教訓に、園内の防火と安全パトロールに努めています。

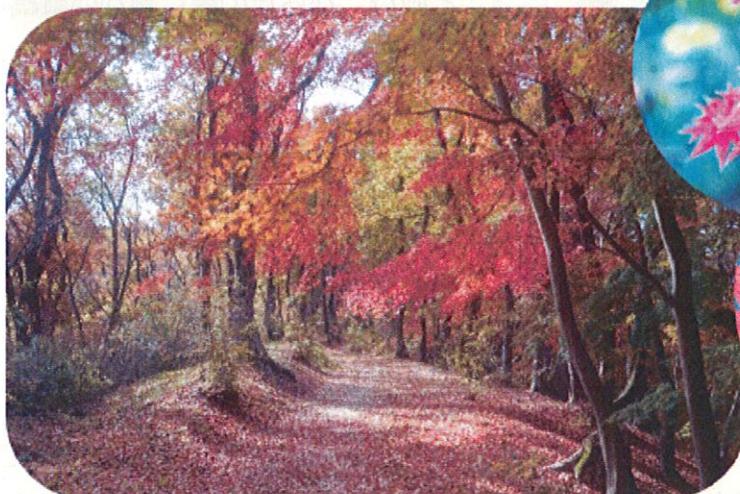
園内はすべて火気厳禁です。ご利用される皆様にも防火にご協力をよろしくお願いいたします。

火の用心!

今秋も鮮やかでした! 県民の森のお勧めスポット~No.17~ もみじの道

県民の森の紅葉の見所は、2~3カ所あります
が、その一つがズバリ歩

道名にもなっているこのモミジの道です。通称3号幹線を北に向かい、唯一の上り坂の中間ぐらい、道沿いの杉林の一角に入口があります。ここから西側松陵団地方面に下る尾根筋の道で、緩やかで道幅もあり快適な遊歩道です。ここのモミジはコナラ林に混植されたイロハモミジです。



コハウチワカエデ



今秋も鮮やかに染まりましたが、コナラの黄葉との組み合わせは独特な美しさで輝いていました。道沿いには、イロハモミジほか所々にコハウチワカエデ、オオモミジなども点在し、イロハとの違いを感じながらの探訪も楽しいものです。

イロハモミジは行程の半ばまでですが、その先はハウチワカエデ、コハウチワカエデなどの自然植生種も点在し、更に行程最後はモミジとは全く毛色の違う沼杉の黄葉が締めくくってくれます。

この道の終点は団地下沼沿いの三叉路ですが、もっとモミジを愛でたい方は右折して水辺の道を辿るコースをお勧めいたします

(工藤)



◆中央記念館◆コーナー vol.4



中央記念館にはほんの少しですが、県民の森でみつけた鳥の巣が展示しています。鳥たちがなんの為に巣を作るか、考えたことがありますか？

卵を産み育てるためだけにさまざまな材料で、翼やくちばし、お腹やお尻、足を使って、器用に作り上げます。

今月の

スタッフが見つけたしぜんのひとコマ

けんみんのもり写真館

ナナカマド 七竈
(バラ科ナナカマド属)



山地帯から亜高山帯に分布するため、県民の森には自生していません。以前、栗駒山に登った時全山紅葉でナナカマドの赤・ミネカラエテの黄や橙・ハイマツの緑のグラデーションに感動！！紅葉と赤い実が美しいので寒い地方では街路樹や公園に植えられます。

我が家の中にも食料が乏しくなった頃ツグミやアトリが立ち寄ってくれます。野鳥が青空の下、枝の雪から赤い実を啄む姿はベストショットとなります。

樹皮は全ての木ではないですが菱形に裂けるものがあります。

(森谷)



ヤブコウジ 蔷薇子
(サクラソウ科ヤブコウジ属)

冬枯れた厳寒の森を散策していると純白の雪の隙間で、冬の陽射しを跳ね返すように深翠の葉と眇眇たる紅色の実が光彩を放っていました。葉や果実がミカンの一種である柑子に似ていて、薔薇の中に生えることが名前の由来です。



万葉集では「山橘」の名で詠まれ、古くから日本人に愛された植物です。明治時代には一大ブームが起き、現在の価格で一千万円の高値で取引されるものも出て、売買禁止令が出されるほどでした。

落語「寿限無」の中の「やぶらこうじのぶらこうじ」は本種とされています。
(片岡)



ヒヨドリの巣

ウグイスの巣

クモの糸を使って葉を編んで巣を作る鳥もいます！どうやって作ったのか、どんなふうに卵をあたためて子育てしていたのか、想像してみるのも楽しみ方のひとつです。

※お庭などで鳥の巣をみつけても採取には十分な配慮が必要です。使い終わったものか、ダニやハチがないか、今は鳥インフルエンザにも注意が必要です。



ホシハジロ 星羽白
(カモ科ハジロ属)

水面にパカリと浮かんでいる赤茶色の頭、黒い胸、背や腹が灰色はホシハジロ。

飛んでいる時に羽の下面に白い帯がはっきり見える種類をハジロと呼び、からだの黒く細かい縦縞を星に見立て、ホシハジロだそう。メスは頭から胸が茶色、体は淡褐色。ユーラシア大陸中北部から渡ってくる冬鳥です。

昼間は静かな水面で羽を休め、夕方頃から潜って植物や藻類などを食べる姿が観察できます。よく見るとオスは赤い眼、黒とグレーのツートンカラーの嘴が特徴なんです。県民の森では菅野沢のため池などで見られます。

(写真:秀文:もち)

